

# 強い米経済指標受け市場の利上げ見通しに変化

## ポイント① 米雇用や米サービス需要は依然強い

2月3日に発表された米経済統計は、雇用やサービス需要の強さを示す内容となりました。1月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比51.7万人増となり、市場予想（同18.8万人増）を大幅に上回りました。失業率も3.4%と53年ぶりの低水準となり、今回の米雇用統計で米労働市場の強さが改めて確認されました。

同日発表の1月の米ISM（サプライマネジメント協会）非製造業景況感指数は、昨年12月から6ポイント高い55.2と市場予想（50.5）を大幅に上回り、項目別では新規受注の改善が目立ちました（昨年12月45.2→1月60.4）。これは昨年末のサービス需要の鈍化が、寒波等による一時的なものであった可能性を示唆しています（右上図）。

## ポイント② 市場が予想する利上げ見通しに変化

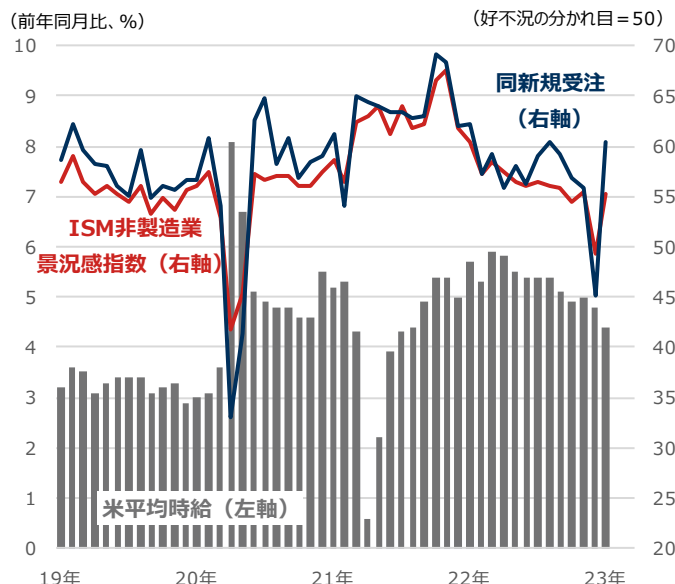
米景気の強さを示す経済統計を受け大きな変化が表れたのが、市場が予想するFRB（米連邦準備制度理事会）の利上げ見通しです（右下図）。FF金利先物市場では、5月のFOMC（米連邦公開市場委員会）までに累計0.5%の利上げが行なわれる確率は、前日までの20%程度から、3日には60%まで上昇しました。

ただ、同日発表の1月の米平均時給の伸びは前年同月比4.4%と昨年12月の同4.8%から鈍化しました（右上図）。FRBが重視する賃金インフレは抑制されつつあり、市場の年内利下げ観測を打ち消すまでには至っていません（右下図）。3日の米国株は下落しましたが、主力ハイテク株の一角が堅調に推移するなど、市場は冷静さを保っているともいえます。当面は米インフレの鈍化が続くかが、市場の先行きを占う上で焦点となります。

シニア・ストラテジスト 石黒英之

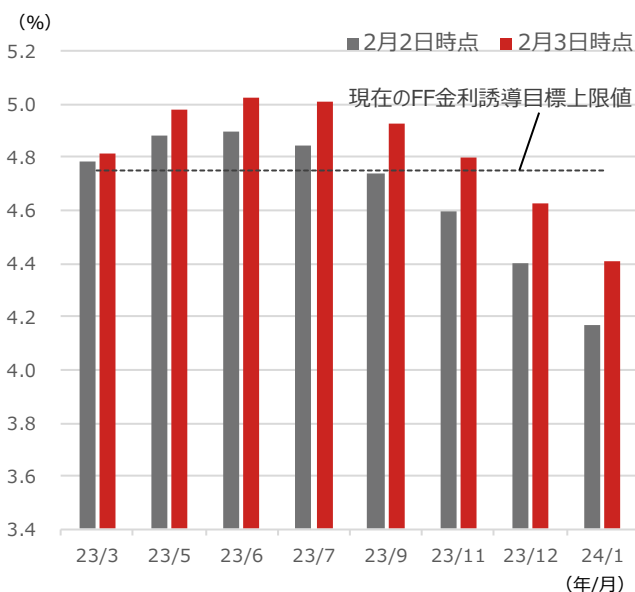


米ISM非製造業景況感指数・同新規受注と米平均時給



期間：2019年1月～2023年1月、月次  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米経済指標発表前後の米FF金利予想値2時点比較



期間：2023年3月～2024年1月FOMC  
・FF（フェデラルファンド）金利予想値は先物市場から算出した2023年3月～2024年1月FOMC（計8回）終了後時点の金利予想  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。